



竹灯ろうとイルミネーションで彩られた三角東港

海のピラミッドがクリスマス・ツリーに Misumi 幻灯彩

12月23日、三角町の海のピラミッドおよび物産館ラ・ガール前駐車場で「MISUMI 幻灯彩」が開催されました。これは、三角町の活性化のために地元有志や関係団体が企画・準備から運営まで行う手作りのイベントで、昨年に引き続き2回目。

会場には、スタッフが竹を切り出して細工した「竹とうろう」が約400本立ち並び、参加者が一つ一つのろうそくに点火する点灯式が行われました。その後、カウントダウンで海のピラミッドのリボン・雪ダルマなどのイルミネーションに灯りがともると、巨大なクリスマス・ツリーが暗闇の中に浮かび上がり、参加者から大きな歓声が上がっていました。

曲 Jリーガーがプロの技を伝授 豊野小でサッカー指導

12月23日、豊野町出身でサッカーJ1リーグ、ヴィッセル神戸で活躍する田中英雄選手を招いてのサッカー教室が豊野小学校でありました。(豊野町サッカー協会主催)

同校の1年生から6年生の約50人が参加。田中選手からプロが取り入れている練習メニューの紹介やゲーム形式でボールさばきの速さや正確さなどの指導を受けました。

この教室は、田中選手が休暇を利用して帰省したのを機に開かれたもので、田中選手は「母校の後輩たちと一緒にサッカーをするのは楽しい。いい機会を与えてもらった」と話していました。



あこがれのJリーガーの指導を受ける子どもたち

市 無病息災を願い 市内各地でどんどや



竹の先にぶら下げたもちを焼く参加者

1月13日、不知火町松崎地区でどんどやが行われました。これは、同区と松崎地区福祉会、松崎老人会(壽クラブ)の合同で毎年開催されているもので、今年は、不知火保育園児や地域住民など約100人の参加がありました。

早朝から竹や木(廃材)でやぐらを組み、正月のしめ縄飾りなどを家庭から持ち寄り作製。1年間の無病息災を願い、参加者の代表4人が点火すると、あっという間に火柱となって燃え上がり、煙が立ち昇ると参加者から大きな歓声が上がりました。その後、参加者には御神酒やぜんざいが振る舞われました。



音楽に合わせて体を動かす参加者

地域ぐるみで認知症予防 脳刺激うきうきサロン

12月19日、戸馳改善センターで「脳刺激うきうきサロン~戸馳講座」がありました。これは、「楽しい時間」を過ごすことで脳を活性化することや、地域ぐるみで認知症予防に取り組むことを目指す事業で、高齢者の健康増進・介護予防に関する事業の一環。

この日は、戸馳保育園の年少組~年長組の幼児23人と戸馳地区の高齢者15人が集い、保健師やボディートークリーダーの指導でボディートークにチャレンジ。その後、クリスマス・正月などに関係する曲を指運動やハンドベルの即興演奏などで楽しみながら、関節の運動や腹式呼吸などについて学びました。

3 ハンドボールで快進撃 小学校が九州大会出場報告

11月、山鹿市で行われた第33回熊日学童五輪ハンドボール大会(県ハンドボール協会・熊日主催)の男子1部で優勝した松橋小学校と準優勝した豊福小学校、女子1部で準優勝した当尾小学校の子どもたちが12月、阿曾田清市長に九州大会出場の報告に来ました。

宇城市のハンドボール競技のレベルは大変高いものがあり、3チームは12月22日から沖縄県浦添市で行われた九州大会に出場し大活躍しました。

県代表として市内から3チームも一緒に九州大会に出場するなんてすごいですね。



笑顔で九州大会出場の報告をする当尾小学校の子どもたち

虹色のふうせん講演会 糖尿病とうまくつきあう



参加者からの質問に答える大村詠一さんと理恵さん親子

12月7日、宇城市(松橋)保健福祉センターで第79回虹色のふうせん(療育ネットワーク)講演会が行われ、一般参加者も含めた154人の参加がありました。

講師は、8歳で1型糖尿病を発病しつつもエアロビックで国際的に活躍している熊本大学4年生の大村詠一さんと、母親でエアロビックインストラクターの理恵さん親子(大津町在住)。

「糖尿病とエアロビックという2つの個性によって人一倍の出会いに巡り会えた」と自己紹介する詠一さんは、エアロビックの演技披露の後、「糖尿病とうまくつきあって世界一をめざす」をテーマに講演。闘病生活の中で恩師の「善い加減に生きなさい」の言葉などを糧に「糖尿病とうまくつきあう」ことを学び、エアロビック世界大会で優勝を狙うまでになったことを話しました。